

2024年度 オンライン連続ワークショップ

戦争と占領、自然災害、食糧不安等、複合危機が続く中東・アフリカ地域。世界史の中に地域の歴史を位置付けつつ、それぞれの国の複雑な文脈について専門家の皆様に多角的な考察を行って頂きます。奮ってご参加ください。

第1回 2024年7月20日(土) 13:30-15:00

WS
1

報告者 **清水 学** (ユーラシア・コンサルタント)

「イスラエルの対外政策と農業技術

ーハイテク化とトランスナショナル資本主義の展開ー

ディスカッサント **立山 良司** (防衛大学校)

第2回 2024年7月25日(木) 17:00-18:30

WS
2

報告者 **ラーウィア・アッタウィール** (東京外国語大学)

「イエメンの現状と紅海でのホーシー派の介入について」

ディスカッサント **佐藤 寛** (開発社会学舎)

第3回 2024年8月2日(金) 15:00-16:30

WS
3

報告者 **清田 明宏** (国連パレスチナ難民救済事業機関(UNRWA))

「長期化するガザ戦争と人道危機ー現場からの報告ー」

ディスカッサント **錦田 愛子** (慶応義塾大学)



すべてZoom開催です。ご参加希望の方は、**各開催日前日18時までに**、以下のフォームからご登録ください。当日お昼頃までにZoomリンクをお送りいたします。

<https://forms.gle/RqnU75g1wdoGP1vy6>

お問い合わせ: menafoodemergency@gmail.com

共催: 科研費・学術変革領域研究(A)「イスラーム的コネクティビティにみる信頼構築: 世界の分断をのりこえる戦略知の創造(イスラーム信頼学)」(領域代表者: 黒木英充)・公募研究「有事と食糧ー中東・北アフリカにおいて試されるコネクティビティと信頼構築」(研究代表者: 井堂 有子、課題番号23H03929)

「有事と食糧」
研究会

イスラエルの対外政策と農業技術

—ハイテク化とトランスナショナル資本主義の展開—

報告者 **清水 学** (ユーラシア・コンサルタント代表取締役)

ディスカッサント **立山 良司** (防衛大学校名誉教授)

2024年

7月20日(土)

13時半-15時

「有事と食糧」 研究会

WS
1

(報告要旨)

イスラエル・パレスチナ紛争の底流の一つは水配分農業問題にあるが、現在グローバルにも水・食糧確保は一層重要な課題となっている。一方イスラエルは委任統治時代からシオニズム運動のなかで戦略的に科学技術の発展を重視してきたが、乾燥地での農業生産の制約を克服する過程でドリップ灌漑、バイオ、農工コンプレックスなどの独自の農業技術システムを模索してきた。その成果は中東・アジア・アフリカ・ラテンアメリカなどへの外交的レバレッジとして機能する意味をもった。イスラエル経済は1980年代半ばにシオニズム社会主義から新自由主義化・国際化に向けたドラスティックな構造的変革を行い、その後のダイナミックな民営化、グローバルなM&A、金融の国際化を展開した。90年代半ばのIT化の波に乗り、ハイテク化・スタートアップ企業の群生などの新展開を経て、農業技術も高度スマート化が進んだ。イスラエルの農業を含む技術力の持つ外交的役割をグローバルな視点から考えてみたい。

Zoomのみの開催です。ご参加希望の方は、**7月19日18時**までに、以下のフォームからご登録ください。当日までにZoomリンクをお送りいたします。<https://forms.gle/RqnU75g1wdoGP1vy6>
お問い合わせ: menafoodemergency@gmail.com



こちらからも登録できます

共催: 科研費・学術変革領域研究(A)「イスラーム的コネクティビティにみる信頼構築: 世界の分断をのりこえる戦略知の創造(イスラーム信頼学)」(領域代表者: 黒木英充)・公募研究D02「有事と食糧—中東・北アフリカにおいて試されるコネクティビティと信頼構築」(研究代表者: 井堂 有子)

イエメンの現状と紅海での ホーシー派の介入について

Yemen's current situation and Houthi Interventions in the Red Sea

報告者 **ラーウィア・アッタウィール** (東京外国語大学客員研究員/元ユニセフ職員)

Dr. Rawia ALTAWEEL (Visiting Researcher, TUFS-ILCAA/Former UNICEF Emergency Manager)

ディスカッサント **佐藤 寛** (開発学学舎主宰)

*こちらの開催言語は英語です(English Session)。

2024年

7月25日(木)

「有事と食糧」研究会

WS
2

17時-18時半

(報告要旨)

「アラブの春」を経た2014年のホーシー派による首都サナアの陥落以降、2015年から現在に至るまでサウジアラビア主導の軍事攻撃は続いており、イエメンは不安定な政治状況と劣悪な社会経済状況に苦しめられてきた。2023年10月以降、イスラエルによるガザ戦争への反応として、ホーシー派は紅海を通過する船舶への攻撃を継続しており、紅海とインド洋をつなぐバブ・エル・マンデブ海峡経由での国際貿易に重大な影響が発生している。本報告では、駐イエメン国連ユニセフ事務所での人道支援活動を踏まえ、こうしたイエメンの現状と課題について考察したい。

Presenting Yemen's current internal context as the country has been struggling with political instability and socioeconomic deterioration since the Arab Spring popular uprising and the following takeover of the capital Sanaa in 2014 by the Houthis that triggered the Saudi-led coalition military campaign on Yemen from 2015 to date. Following that, exploring the Houthis intervention in the Red Sea as a reaction to the Israeli war on Gaza since October 2023; such interventions have significantly impacted international trade via Bab Al-Mandab, the Red Sea, and the Indian Ocean.

Zoomのみの開催です。ご参加希望の方は、**7月24日18時**までに、以下のフォームからご登録ください。当日までにZoomリンクをお送りいたします。<https://forms.gle/RqnU75g1wdoGP1vy6>
お問い合わせ: menafoodemergency@gmail.com



こちらからも登録できます

共催: 科研費・学術変革領域研究(A)「イスラーム的コネクティビティにみる信頼構築: 世界の分断をのりこえる戦略知の創造(イスラーム信頼学)」(領域代表者: 黒木英充)・公募研究D02「有事と食糧—中東・北アフリカにおいて試されるコネクティビティと信頼構築」(研究代表者: 井堂 有子)

長期化するガザ戦争と人道危機

—現場からの報告—

報告者 **清田 明宏** (国連パレスチナ難民救済事業機関(UNRWA) 保健局長)

ディスカッサント **錦田 愛子** (慶応義塾大学教授)

2024年

8月2日(金)

15時-16時半

「有事と食糧」 研究会

WS
3

(報告要旨)

2023年10月7日から8か月以上を経て未だ停戦に至らないガザ戦争。病院や学校を含む広範囲な地域への空爆・攻撃は続けられ、民間人や医療関係者、ジャーナリストを含む未曾有の規模での被害が発生している。7月9日には北部ガザ市にある国連パレスチナ難民救済事業機関(UNRWA)の本部建物がイスラエル軍に攻撃されており、避難を強いられるガザ住民に「命の綱」を提供してきたUNRWAへの軍事攻撃と政治的圧力が続けられている。本報告では、UNRWA保健局長として現地での医療・人道支援に長年携わってこられた清田明宏医師からガザの現状について御報告頂く。

Zoomのみの開催です。ご参加希望の方は、**8月1日18時**までに、以下のフォームからご登録ください。当日までにZoomリンクをお送りいたします。<https://forms.gle/RqnU75g1wdoGP1vy6>
お問い合わせ: menafoodemergency@gmail.com



こちらからも登録できます

共催: 科研費・学術変革領域研究(A)「イスラーム的コネクティビティにみる信頼構築: 世界の分断をのりこえる戦略知の創造(イスラーム信頼学)」(領域代表者: 黒木英充)・公募研究D02「有事と食糧—中東・北アフリカにおいて試されるコネクティビティと信頼構築」(研究代表者: 井堂 有子)